

50周年記念 青年海外協力隊50周年記念

特集第4弾!

元青年海外協力隊員で富山・朝日町で地域おこしに奮闘

神谷桂三郎さんにインタビュー!!

2002~2005年・ドミニカ共和国/2010年・ペリリーズ/2011~2012年・ブータンで活動

Q1 ドミニカ共和国、ペリリーズ、ブータンの3か国では、どんな活動をしていましたか?

神谷さん：音楽教師として、主にソルフェージュ教育やピアノ指導、また、音楽家の作曲活動に対する助言や教員教育を担っていました。

Q2 現在、富山県朝日町で地域おこし協力隊として活動していますが、そこで青年海外協力隊の経験はどう生かされていますか?

※ソルフェージュ教育
西洋音楽の学習において楽譜を読むことを中心とした基礎訓練のこと

神谷さん：日本の地域活動も、海外との異文化コミュニケーションに通じるものがあります。自分がこれまで培ってきた価値観との相違を理解する上で、青年海外協力隊の経験が生きています。

Q3 今後、朝日町がどうなっていきたいと思いませんか?

神谷さん：過去と比較することなく、現在の状況に適した新しい価値観で発展することを願っています。心豊かな優しい町になってほしいです。

海外経験を活かして、地域の活性化を!



ピアノ指導の様子(ドミニカ共和国)



教え子たちと(ドミニカ共和国)



GNH国際会議にてブータンのトプゲイ首相と



朝日町の清水寺にて

幸せの国 ブータン

～障がい者の方たちと、共に助け合って生きる!!～

JICA北陸と白山市の社会福祉法人佛子園は、2013年から、草の根技術協力事業「ブータン国 ソーシャルインクルージョンによる障害者支援プロジェクト」を実施しています。

※ソーシャルインクルージョン
障がい者らを社会から隔離排除するのではなく、社会の中で共に助け合って生きていこうという考え方。

ティンブーのゾン(ブータンの政治と宗教の中心地)

この草の根技術協力事業は、佛子園とJICAが、ブータンのタラヤナ財団などと協力して、障がい者支援の質の向上を目指しています。

2015年10月には首都ティンブーで、障がい者支援に関わるソーシャルワーカーを対象とした研修会を実施しました。佛子園の福祉専門家が講師となり佛子園の石川県での取り組みを講義しました。また、佛子園施設で半年間研修を受講したタラヤナ財団のスタッフが講師となり、日本でのソーシャルインクルージョンの実例を紹介しました。同時に、障がい者が製作に関わる民芸品の質を改善するための講習会も開催されました。日々、障がい者と接しているソーシャルワーカーから多くの質問があり、少しでも日本から学びたいという積極的な姿勢が印象に残りました。

ブータンで障がいの有無にかかわらず、みんなが支え合う社会づくりを目指して、この草の根事業は、ブータン人と日本人が協力して実施しています。ブータンでのソーシャルインクルージョンの実現に向けて、一歩一歩着実に進んでいます。



ブータンの首都 ティンブー



ティンブーのチベット仏教寺院



タラヤナ財団のショップ



福祉研修会の様子

11/17 青年海外協力隊発足50周年記念式典

青年海外協力隊をはじめとする、色鮮やかな民族衣装をまとったJICAボランティア経験者や、さらに支援者、関係者を併せ約4,500人が出席しました。

式典は、天皇皇后両陛下のご臨席の下、安倍晋三内閣総理大臣からの祝辞が代読され、その中で協力隊の活動は「日本の外交の宝」と言及されました。第1部終了後にはJICAボランティア経験者が天皇皇后両陛下にご懇談を賜りました。

第2部では協力隊50周年のイメージソング「ひとりひとつ」を、ミュージシャン・著名人らが熱唱し盛大に式典のフィナーレを迎えました。



青年海外協力隊事業を支えて頂いた方々に感謝を述べる北岡伸一JICA理事長



式典第2部のフィナーレ

11/18 青年海外協力隊50周年記念事業『地球のステージ』開催報告!!

青年海外協力隊50周年記念事業として11月18日に高岡市立高陵中学校で「地球のステージ」の公演を行いました。

音楽と映像でめぐる世界の国々。案内人の桑山さんが各地で出会った人々とのエピソードとともに、国際協力は身近なことからできることがある、難しく考える必要はないというメッセージが中学生に向けられました。



公演の様子



公演終了後、生徒会の代表者からお礼の言葉と花束が渡されました。

「地球のステージ」についてはコチラ!
<http://e-stageone.org/estage/opening>

突撃インタビュー!! ABEイニシアティブ研修員 ケニア出身のクレイさん!!

今回は福井大学



今回お会いした研修員はケニア出身のクレイ ステファン キブコスキさん。シャイなのですが笑顔が可愛くて、質問に対して真剣にお話してくれました。

Q1 福井大学ではどんなことを勉強していますか?

クレイさん：電源系、電力システムについて勉強しています。

Q2 福井大学であと1年程学びますが、その間JICA研修員としてどのようなことをしたいですか?

クレイさん：修士号をとり、その後半年くらい、インターンシップ(日本の企業で働くこと)をして日本の企業とネットワークを持ちたい。

Q3 研修員として学んだことをケニアに戻ったあと、どう生かしたいですか?

クレイさん：アフリカでは、副業を持つことが普通です。私の本業は公務員ですが、研修を終えケニアに戻ったら、副業として高校生を対象に教える工学技術訓練校でトレーナーをしたいです。ただ、ケニアと日本では電力のシステムが違う(日本の方が複雑で難しい)、現在学んでいることは実際に活用できないことが多いと思いますが、深い知識を得ることは教えるためにとても役に立ちます。あとは、ケニアに戻っても日本の企業とネットワークを持続していきたいです。

ABEイニシアティブとは...

African Business Education Initiative for the Youth の略語で、5年間で1000人のアフリカの若者に対し、日本の大学や大学院での教育と、日本企業でのインターンシップの機会を提供するものです。このプログラムでは、アフリカ諸国にて産業開発を担う優秀な若手人材を外国人留学生(研修員)として日本へ受け入れ、本邦大学における修士課程教育と、企業への見学およびインターンシップ実習を実施しています。